

陰山 亮子さん（島根県出雲市出身）
JICA 草の根技術協力事業
案件名：エル・パライス県バド・アンチョ市における
栄養改善に向けた家庭菜園普及プロジェクト
実施団体：特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
実施国：ホンジュラス共和国
2018年9月9日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

菜園づくり普及へ支援

中米ホンジュラス南部のエル・パライス県バド・アンチョ市は、首都から路線バスで7時間かかる山奥に位置する。人口4千人ほどの小さな市だ。マルコさんの家は、そこからさらに徒歩で2時間かかるアルメンドロ村にある。

乾燥し荒涼とした土地は住民の主要な収入源である農業に悪影響を与え、食糧不足に陥ることがよくある。干ばつのひどい年には国際機関から食糧支援を受けることも。

住民は「いざとなれば食糧が送られてくる」「誰かが助けてくれる」という安易な感覚を覚え、解決策ではなく「もらう」ことばかりを考えるようになってしまっていた。



土づくりについて、実際に畑を作って学ぶ住民
（奥中央がマルコさん）

そんな中でマルコさんは、家庭菜園普及活動のリーダーとして参加を決めてくれた。国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業として、私の所属する AMDA 社会開発機構が手掛ける支援事業だ。

環境にやさしい、村の自然を守るための家庭菜園づくりを自宅で実践し、村内での普及に努めている。彼の畑が瞬く間に緑色になり、さまざまな種類の野菜が成長し始めたのを目の当たりにした村人は「教えてほしい」「私の家でもできるか」などと、マルコさんの指導を仰ぐようになった。今や村内だけでなく、近隣の村へも広がりつつある。

生まれ育った村の将来を思う人の心は、遠くホンジュラスでも日本と変わらない。情熱を持った彼の活動が、村の人々の明るい未来につながることを信じて共に活動を続けていきたい。